

令和4年度経済学部学生チャレンジプロジェクト事業成果報告書 ちよんまいガーデンから持続可能な暮らしを考えるプロジェクト

代表 脇 舞子(経済学科 3年生)

(1) 目的と概要

本プロジェクトは、有機農業の実践を通して有機野菜の魅力を発信することを目的としている。今年度は「持続可能な暮らし方」というテーマを掲げ、農業が私たちの生活にとって不可欠であるということや、農業と暮らしのつながりを実感できる取り組みをしたいと考えた。これまで2年間行ってきた有機野菜の魅力発信の活動を継続させつつ、多くの人に農業を生活の中の1つの要素として感じてもらうことを目指して活動した。

(2) 実施期間

令和4年4月1日～令和5年3月31日まで

(3) 成果の内容

1) 具体的な成果

本プロジェクトでは、主に有機野菜の栽培や SNS での発信、持続可能な暮らし方をテーマとしたイベントの開催等を行った。以下が主な取り組みと成果である。

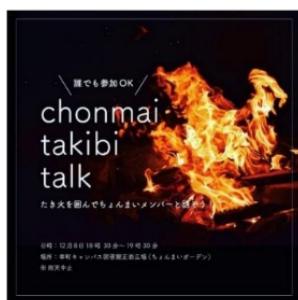
① 有機野菜の栽培・発信

夏野菜は、トマト、ナス、ピーマン、ししとう、ズッキーニ、まくわうりを栽培し、秋冬野菜は、キャベツ、ブロッコリー、カリフラワー、ラディッシュ、大根、レタス、白菜を栽培した。夏野菜は全体的にどの野菜も良く育ち、トマトを中心にたくさんの野菜を収穫することができた。秋冬野菜はそれぞれの野菜の種類によって成長スピードや形に差が出たが、成長の過程に応じて、農家の方に意見を伺ったり、メンバーで調べたりしながら栽培を進めた。夏には学長に農園に来ていただき、成長の様子をお伝えして、試食していただくことができた。

また、毎日の水やりの様子や野菜の成長過程、イベントの様子の発信を Instagram、Twitter を用いて「ちよんまい日記」として発信した。今年は Instagram に加え Twitter でも発信すると同時に、目を引くような投稿になるようにメンバーで協力してデザインを工夫した。Instagram では、できるだけ投稿に表紙を付けるなど多くの人に楽しんで見てもらえるようにした。Twitter では、過去の投稿が見にくく埋もれやすいと感じたため、投稿のまとめとなるモーメントを作り、それをページのトップに固定することで見やすくなる

よう改善した。さらに、年度初めにはちょんまいガーデンのシンボルとなるロゴ作りや、メンバー紹介投稿を行い、プロジェクトの存在を多くの人に知ってもらうことを目指して SNS での発信の充実を図った。

< SNS の発信の様子 >



< プロジェクトのロゴ >



②持続可能な暮らし方への取り組み

7月と12月には農園でのイベントとして焚火イベントを開催し、人と人とのつながりづくりと堆肥作りの両方を実現した。前期はプロジェクトメンバー内だけでの開催となったが、後期は大学院生やサポーターなどプロジェクトメンバー外の人にも参加してもらうことができた。

また、10月後半には堆肥作りを目的に、自分たちでコンポストについて調べ、実際に農園に雑草コンポストを設置することができた。今後も引き続き堆肥作りを進める予定である。

< 農園での活動の様子 >



2) 大学や地域社会の活性化、学業の振興等に対してもたらした影響あるいは効果

SNS のフォロワーが増加 (Instagram326 フォロワー→387 フォロワー、Twitter49 フォロワー→126 フォロワー) し、学内外ともにより多くの人に活動を認知してもらうことができた。後期の焚火イベントには、メンバー外の方にも参加してもらうことができ、プロジェクトの枠を超えた人との関わりができたと感じる。

また、有機野菜の栽培だけでなく、農園を訪れてもらいやすいような空間づくりにも取り組んだ。プロジェクトを紹介したり、野菜の名前をわかりやすくしたりするために看板を作成した。看板のデザインはメンバーが工夫して考え、設置した。

<看板デザインの一例>



また、メンバー自身で有機農業の栽培に関する情報を調べたり、農家の方に伺ったりして有機農業に関する知識を身に付けることができた。それとともに、メンバー内での学びの成果も SNS で発信し、有機野菜に少しでも関心をもってもらえるようにした。

<野菜の育て方のまとめ資料の一部>



日々の栽培を通して身に付けた知識と、農園での実践的な活動を通して得た経験から、メンバー自身が農業の奥深さやその重要性を実感することができた。メンバーそれぞれの役割を通して責任感をもって活動したことにより、今後の学生生活にも学びを活かすことができると考える。

また、SNS でフォロワーが増えたり、イベントでメンバー外の方との関わりができたりしたことにより、私たちの活動が少しずつ周囲に影響を与えていることを感じる事ができ、プロジェクト内部にとどまらず、大学や地域とのつながりを認識することができた。

(4)プロジェクトから学んだこと

中心となって活動するプロジェクトメンバーのほとんどが、農業に関わることが初めてであったため、試行錯誤しながら野菜の栽培に取り組んだ。今年度はこれまで継続して取り組んできた SNS での発信を行うとともに、持続可能な暮らしに目を向け、コンポストを用いた堆肥作りなど、新たな取り組みにも着手することができた。今年度の活動を経て、有機農業に関する知識を身に付けるとともに、日頃の生活においても食と環境との関わりについて考えるようになった。農業に関わる機会の少ない大学生自身が実際に農業を経験し、発信したことで、まずはメンバー自身が持続可能な暮らしを実践する意識をもって学びを深めることができた。

一方で、昨年度同様サポートメンバーとして1、2年生を中心に参加してもらったが、水やりやイベント参加など、活動が限定されてしまった。私たちの活動を広く知ってもらったり、有機農業の楽しさを継承したりするためにも、今後サポーターが活動にうまく関わられるような仕組みをつくっていくことが必要であると考えます。また、後期は予定していた新しいイベントを実現できなかったという反省点もある。既存の活動だけでなく、発展した新しい取り組みを行ったり、学外に出て有機農家の方に取材を行ったりするなど、今後学びの幅をさらに広げられるような活動ができるように改善点を明確にして次の活動につなげたいと考えます。

(5)実施メンバー

代表者	経済学部 3 年	脇舞子
メンバー	経済学部 3 年	秋山ひとみ
	経済学部 3 年	石川敦也
	経済学部 3 年	岡本瑞稀
	経済学部 3 年	田井涼子
	経済学部 3 年	堂野歩
	経済学部 3 年	徳田梨紗
	経済学部 3 年	二川英実
	経済学部 3 年	三木愛可
	経済学部 3 年	山下桃佳
	経済学部 3 年	和田葉奈加
	経済学部 3 年	渡邊遥香
	経済学部 3 年	竹島悠悟
	経済学部 4 年	青野桃子
	経済学部 4 年	井内美祐

経済学部 4年 江口舞香
経済学部 4年 越智菜月
経済学部 4年 北口朋希
経済学部 4年 鈴木拓海
経済学部 4年 長樂成美
経済学部 4年 早見知紗
経済学部 4年 真鍋佑月
経済学部 4年 三野奈津希
経済学部 4年 宮脇令佳
経済学部 4年 山縣香納絵